

<宣言の解説>

前文では、江別市が「子どもは幸せであるべき存在」ということを共通認識として持ち、その子どもの幸せを第一に考え、その子どもがいつも笑顔で、健やかに成長できるまちを目指すことを明確にしています。

また、宣言作成にあたり、「幸せだと思うときはどんなとき」というアンケートを子どもたちに実施しており、4,000件を超える回答の中で、たくさんの意見が寄せられた、「遊ぶ」こと、「食べる」こと、「眠る」ことなどを、子どもの願望として明示したほか、みんなに「褒められる」ことや、「認められる」ことなどを望む回答も多くあったことから、自己肯定感や、子ども自身が持つ育つ力を大切にすることを示しています。

そして、子どもの幸せを第一に、子どもにとって最善の利益を考える、すなわち、子どもが主役のまちを目指すことを宣言しています。

この「子どもが主役」とは、誰かが主役、誰かが脇役という意味ではありません。

子どもが、大人から守られるだけの存在でなく、子ども自身が権利をもつ主体であるという考えを大切にするために、「子どもが主役」という言葉を使っています。

続く4つの項目文では、子どもが健やかに育つまちを目指すために必要な「基本姿勢」を掲げています。

1つ目は、子どもの権利条約を踏まえ、子ども一人ひとりを権利の主体として尊重していくと同時に、子どもの意見をまちづくりに反映すること。

2つ目は、子ども自身が育つ力を持っていることを大切にしながら、その育ちを支援するための環境づくりやまちづくりに取り組むこと。

3つ目は、誰もが安心して子育てしていけるための環境の整備を進めること。

4つ目は、子どもの養育に直接携わる家庭や学校だけでなく、関係機関や地域住民など地域ぐるみで子どもの成長を支えていくこと。

今後、江別市が「子どもが主役のまち」を目指していくに当たっては、常にこの4つの観点を基本姿勢としながら、子ども関連の施策を進めていくこととなります。